

「市小・中学校のシマロ伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立市小・中学校

2 学年・人数

小学校1年（1人）、3年（1人）、4年（1人）、5年（2人）

中学校1年（1人）、2年（1人）

計7人

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和3年4月～令和4年3月

毎月第3金曜日 集落公民館

毎週火曜日 学校体育館など

(2) 発表の日時・場所

令和3年9月19日（日）市小中学校・校区合同秋季大運動会

令和3年10月17日（日）学習発表会・校区合同文化祭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

シマロ伝承活動（しまぐちでんしょうかつどう）

(2) 由来

シマロとは、奄美方言または奄美語のことであり、琉球語（琉球方言）の奄美を中心とした地域で話される方言（言語）の総称である。シマロを話す島民は減ってきており、平成21年ユネスコにより発表された絶滅の危険がある言語として取り上げられている。

(3) 構成等

本校では、このシマロを児童生徒に伝承し、よりよい島の文化を次の世代に継承していくことで、郷土を愛し、郷土に誇りをもつ児童生徒の育成を図りたいと考えている。

5 保存会や地域との連携の具体

(1) 学校評議委員会

学校評議委員会は、校長・教頭・集落区長・PTA会長・伝承活動代表、民生委員、老人クラブ会長の7人で構成されている。地域行事関係での連絡調整を図る会でもあり、PTA会員を中心に構成された「きらり推進部会」で話し合われた内容を提案し、地域の協力を仰いでいる。

(2) きらり推進部会

主にPTA行事についての連絡調整を図る会である。日程調整、具体的な内容、それぞれの係分担等が話し合われる。主なPTA行事としては、「シマロ」「三味線」「八月踊り」等の伝承活動等である。他にも「遠泳大会」「校区合同運動会」「学習発表会・地区合同文化祭」について、話し合う。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

本校では、毎週火曜日の朝の活動時間を「奄美学」と設定し、奄美の歴史や伝統・文化を学ぶ活動を行っている。その中で集落の高齢者の方々を招き、集落のシマロの伝承活動を行っている。普段の生活の中で使うシマロを具体的に動作を交えて教えていただき、朝の挨拶、帰りの挨拶を島口で行うなど生活の中で活用しながら覚えている。7月からは、高齢者の方々の指導のもと「シマロ劇」に挑戦し、「学習発表会、地区合同文化祭」で披露している。

また、シマロで作られた、シマロカルタなどを活用することでシマロを楽しく学び、より身近に感じられるように工夫している。また「シマロ検定」に独自に取り組み、教わってきたシマロを改めて学ぶことができている。

他にも、「三味線」(授業)、「八月踊り伝承活動」(地域行事)を実施し、シマ唄を通してシマロを学んでいる。「三味線」は、保護者を講師として招き、基本的な三味線の弾き方を教えていただき、シマ唄にのせて演奏できるようにしている。「八月踊り伝承活動」では、敬老会の方々の協力を得て、島に伝わる伝統的な踊りを教えていただいている。ともにシマ唄にのせて行うため、シマロの理解が必要である。全てがシマグチで書かれているため、意味を十分に理解できていない児童生徒もいるが、地域の方々とふれあいを通してシマ唄(シマロ)の内容を理解できるようにしている。

7 取組の様子(練習状況、発表の場等)



シマロ検定



三味線練習



八月踊り伝承会

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【中学1年生生徒】

奄美大島に来て一年ですが、4月からシマロや八月踊りなどを教わり、少しずつシマロもわかるようになってきました。世界自然遺産にも登録された今、私たちが伝統文化を学ぶことは大切になってきていると思います。

【教職員】

児童生徒数が減少し、集落出身の子供たちも少なくなってきており、日常生活の中でシマロを使うことがほとんどなくなってきているが、シマロや八月踊り、三味線を学ぶ活動を通して、奄美の伝統文化を受け継いでいくことはもちろん、地域の方々と交流することのできる大切な機会である。今後もこの取組を継続していくことが必要だと思う。

【保存会から】

子供たちが意欲的に学んでいることが嬉しい。これからも子供たちのために、この大切な郷土のために、指導していきたい。

【地域の方から】

学習発表会での子供たちの発表を毎年楽しみにしています。これからもたくさんの方の事を学んでほしいです。